

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GLP枚方IVプロジェクト	階数	地上4F、地下0F
建設地	大阪府枚方市走谷	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準住居地域、第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	245人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年6月26日
敷地面積	16,084 m ²	作成者	江口知里
建築面積	9,382 m ²	確認日	2024年7月1日
延床面積	34,535 m ²	確認者	小川高行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
大阪府枚方市に建設される事務所付き倉庫の計画である。計画地周辺の緑豊かな景観を損なわないよう沿道や歩道空間には緑化を施し、内部空間においては、全熱交換器やLED照明、在室検知制御照明の採用により、地球環境負荷の低減に取り組んでいる。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
照度は、全般照明方式で、500 lx ≦ 照度1000 lx とし、照明制御は1作業単位で制御できるなど、作業環境に配慮している。また、換気量は建築基準法の1.2倍以上を確保するなど、空気質環境の向上に配慮している。	余裕のある天井高さやリフレッシュスペースにて執務環境向上に配慮、更新間隔の長い仕上材や配管材料を採用し耐用性向上に配慮している。また、階高や壁長さ比率に余裕を持たせフレキシビリティにも配慮している。	景観届を提出しており、外観の色彩や位置の配慮を行っている。また、外観パースを作成して景観検証を行うなど、まちなみに配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LEDなど高効率の機器を採用することで、BEI値の低下に貢献している。	節水器具の採用や再利用できるユニット部材の採用、使用材料を削減することで、省資源に配慮している。	燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。また、適切に駐車場を配置し、車両出入口の幅等に配慮することで、周辺道路の渋滞緩和に寄与している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2024V1.1

【建物概要】 建物名称		GLP枚方IVプロジェクト					
建設地		大阪府枚方市走谷					
用途/区分		工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★★★★☆				A	
①	CO2削減	★★★★☆				4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★★☆				3	
③	断熱性能	★★★★☆				5	
	<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>	評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能	★★★★☆				5	
	<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>	評価対象外			評価対象外	
	<small>非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分</small>	★★★★☆				6	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					4.0	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							